



郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2025年9月1日

9月号

校長 安倍 武雄

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

44日にわたる夏休みが終わりました。学校は子どもたちがいてこそだということを改めて感じます。夏休みの学校は、誰もいない校舎の中で、特別教室・体育館の空調整備の工事の音だけが響いていましたが、何か息を吹き返したようです。今日から、前期後半が始まりました。前期のまとめに向けて今一度、朝決まった時間に起きる、朝ご飯をしっかり食べる、次の日の準備をきちんとする、早めに床に入るなどまずは生活リズムを整えることを大切にしていきたいですね。

普段はなかなかまとまった時間が取れないので、夏休みにこそ読書をなどと考えてはみたものの、なかなかページが進みませんでした。それでも何とか3冊ほど読み終わりました。その中で、いくつ か面白い内容があったのでご紹介したいと思います。

～「聴く」よりも「聞く」ほうが難しい～

「(前略) 言っていることを真に受けてほしい、それが「ちゃんと聞いて」という訴えの内実です。これが本当に難しい。僕らにはどうしても相手の言うことを真に受けることができないときがあるからです。(中略) 僕らには聞きたくないときがあり、聞く余裕がないときがある。「聞く」は声が耳に入ってくるから簡単そうに見えるけど、僕はしばしばその耳を塞いでしまうのです。」

「聞く技術 聞いてもらう技術」東方閑人 ちくま新書 より

～どうせしかるなら、もっとうまくしかって欲しくない?～

「おとなってさ、よくおこっているよね。「かたづけなさい」「歯をみがきなさい」「勉強しなさい」「ゲームはやめなさい」「はやくねなさい」。でもホンネをぶつけちゃうとさ、ぜんぜん聞いてないんだ。(中略) 聞かないとめんどくさいから、聞いたフリしてるだけなんだよね。」

「どうせならもっと上手に叱って欲しくない?」吉村直紀 すばる舎 より

～「これくらいできないと困るのはきみだよ」～

「自分がある種、恵まれたというか、この環境に適應できて恵まれたからそうできたと思う人はあまりいないのかな。私が著作で主張してきているのは、誰しも偶然性に専制された世の中を、持ちつ持たれつ生き合ってるんじゃないの? 高い能力のおかげで、選ばれし自分はしあわせです! なんて恥ずかしい勘違いではないの? ということなのですが。」

「これくらいできないと困るのはきみだよ?」 勅使河原真衣 東洋館出版社 より
共通するのはどの本も、立場を変えてみると新しい発見があるということ。聞くためには聞かれていなければ、子ども目線で見たと叱るという行為、「できること」は個人の努力・能力ではなく環境が…。言われ尽くした感がありますが、相手の立場から見ると物事が違って見えることを改めて考えさせられました。ついつい、自分中心に物事を見、判断してしまうから。

夏休み明けの子どもたちは、不安を抱え込んでしまうことがあります。ご心配なことがありましたら、遠慮なく担任までご相談ください。一緒に考えてまいりましょう。